第２回　健康講座

農業者が抱く放射線に対する不安を払拭するため、ＪＡそうま及び除染情報プラザの協力を得て、果樹農家を対象として健康講座を実施しました。

１　**開催日時**　平成 27 年２月６日（金）

２　**開催場所**　ＪＡそうま本店

３　**参 加 者**　32 名

４　**講　　師**　除染情報プラザアドバイザー　青木仁　氏

５　**講演テーマ**

福島第一原発事故と放射線

６　**講演の内容**

・原発事故で放出された放射性物質のうち今後も対策が必要なのはセシウム 137 である。

・事故後の土壌調査の結果からプルトニウム、ストロンチウムに関しては心配はいらない。

・放射線が人間の体に当たると、遺伝子に傷が付き、それが修復されない場合、がんの可能性が増える。

・放射線被ばくにより、体内に活性酵素が生成され、それがＤＮＡを傷つける。

・活性酵素が生成されても、すぐにがんにならないのは、修復酵素がＤＮＡ損傷を治してくれるためである。

・広島・長崎の被爆調査では一度に 100mSv/h 被爆した場合でもがん死亡率の増加は確認されていない。

・外部被ばくを減らすための対策としては、放射性物質に「近づかない」、「早めに通りすぎる」、「遮る」、「取り除く」ことなどがあげられる。

・内部被ばくにおける子供の甲状腺がんの影響は事故の影響とは考えにくい。

・内部被ばくを防ぐための対策としては、食物のモニタリング検査と管理、吸収抑制対策等がある。

・福島県産米は H26 年産 99.98%が 25Bq/kg 以下である（H27.1.29 現在）。

講師の説明に関心を寄せる参加者